

この図鑑の見方

この図鑑では、江の島の海岸の浅瀬で見られる生き物のうち、魚を除く主な動物（無脊椎動物）を紹介しています。無脊椎動物とは、背骨（脊椎）をもたない動物のことです。

①大きなグループの名前

この図鑑では、海岸動物を5つの大きなグループに分けて紹介しています。

1. イソギンチャクのなかま（刺胞動物）
2. 貝のなかま（軟体動物）
3. エビ・カニのなかま（節足動物）
4. ヒトデ・ウニ・ナマコ（棘皮動物）
5. その他のなかま（海綿動物、扁形動物など）

④種名（和名）

遺伝子や姿形がよく似た生物をまとめた、国内共通の名前です。

⑤種の解説

その動物種を見分けるときに参考になるポイントや、生態（暮らし方）の特徴が書いてあります。

②大見出し

大きなグループの中が、さらにいくつかのグループに分かれる場合には、小さい方のグループ名がここに書かれます。

③大きなグループの正式な名前

①のグループ名には、分類学上の正式な名前が別にあります。少し難しい名前なので、ここに小さくのせてあります。

⑦潮間帯の図

⑧のデータ欄に書かれている「上中下」の説明です。

- 上：潮間帯の上部、中：潮間帯の中部、下：潮間帯の下部、下：タイドプールを表します。タイドプール（潮だまり）とは、潮が引いても岩場のくぼみに海水が残る場所のことです。

⑧データ欄

その動物種の体の大きさ、生息環境などのデータです。

大きさ 足盤径 3cm 環境 南/上中/岩の側面や下面 ☆☆

体の大きさ

体長、全長、甲の長さなど、種によって測り方がちがいます（海岸動物の体の見方→p.10-13）。

生息環境

江の島の中での、その種が見られる場所と環境の情報です。
●「西・東・南」……江の島のどのエリアかを示します（江の島の地図→p.4-5）。
●上中下……潮間帯における位置です。右ページの「潮間帯」の図に説明があります。
●「岩場」「砂れき」など……その動物のいる、周りの環境を示しています。

⑨ひとことコラム

江の島の海岸動物に関する、さまざまな豆知識を紹介します。このほか、江の島の海岸動物を調査観察しながら知ったこと、考えたことなどをつづった1ページ大のコラムもあります（p.19, p.39 など）。

見つけやすさ

江の島での見つけやすさです。☆が多いほど見つけやすい種で、赤い★は、江の島ではめったに見られないめづらしい種です。

イソギンチャクのなかま

イソギンチャクのなかま①

刺胞動物
刺胞という毒針のカプセルをもち、獲物をつかまえて、身を守ったりします。サンゴやクラゲもこのなかまにふくまれます。



ハネウミヒドラ
(ハネウミヒドラ科)
大きさ 群体の高さ 20cm 環境 南/上中/岩や石の上 ☆



イソバナビ
(イソバナ科)
大きさ 群体の高さ 5cm 環境 南/上中/岩や石の上 ☆
扇の羽根のように見える群体の生き物です。軸に支えられた枝はいくつもに分かれます。枝は赤色で、黄色や白色の血管が通ります。



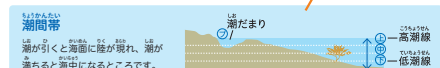
ヨロイイソギンチャク
(ウメボシイソギンチャク科)
大きさ 足盤径 4cm 環境 西・南/上中/岩のすき間 ☆☆☆
おおい緑色から褐色で、体の周りに小石や貝殻をくっつけ、縫うと岩場にまぎれます。



ミドリイソギンチャク
(ウメボシイソギンチャク科)
大きさ 足盤径 4cm 環境 西・南/上中/岩のすき間 ☆☆☆
触手は緑色や褐色など多彩な色があります。砂のたまった岩のくぼみや割れ目で見られます。

⑥動物の写真

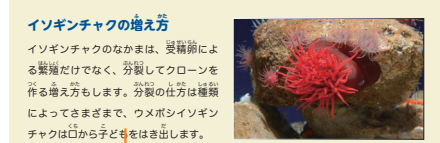
多くの写真は、実際にその動物が見られる場所で撮られています。小さくて顕微鏡で見えるような動物、自然下では体の形が見えにくい動物などは、白や黒の背景で撮影されていることもあります。



ヒメイソギンチャク
(ウメボシイソギンチャク科)
大きさ 足盤径 1cm 環境 西・南/上中/岩のすき間や石の下 ☆
触手はあわい褐色で、体にはたてに並ぶ褐色の斑と、散在した黄色の点があります。



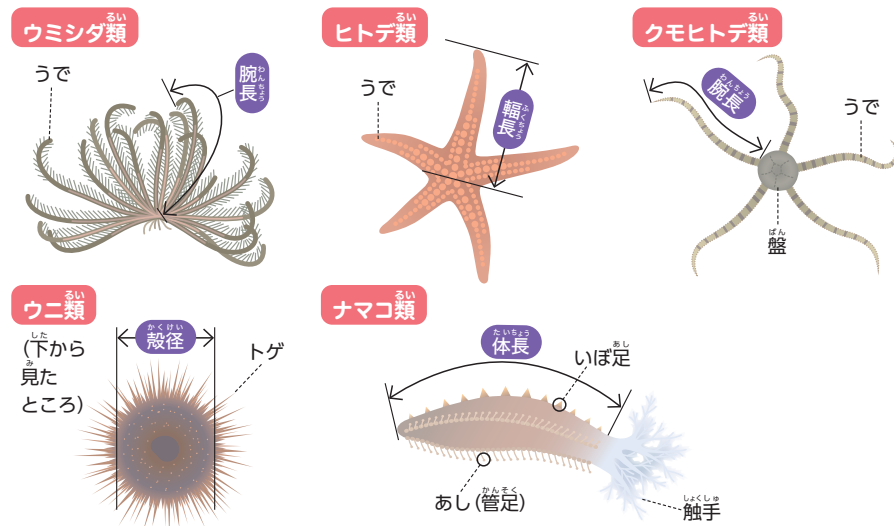
ウメボシイソギンチャク
(ウメボシイソギンチャク科)
大きさ 足盤径 3cm 環境 南/上中/岩の側面や下面 ☆☆
赤色から濃い赤い色で、岩などに付着します。体を縮めた姿が猫干のように見えます。



かいがんだうぶつ からだ み かた 海岸動物の体の見方②

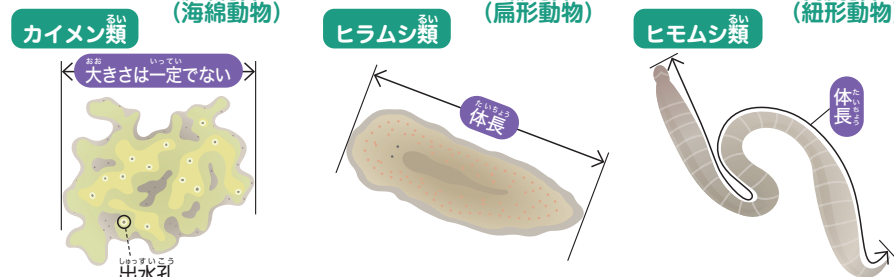
かいがん すがた どうぶつ るい ぐんたいせい
 海岸にはさまざまな姿の動物がいて、カイメン類や群体性のホヤのように、
 からだ おお いってい
 体のりんかくや大きさが一定でないものもあります。

ヒトデ・ウニ・ナマコのなかま (きよく ひ どうぶつ) (棘皮動物)

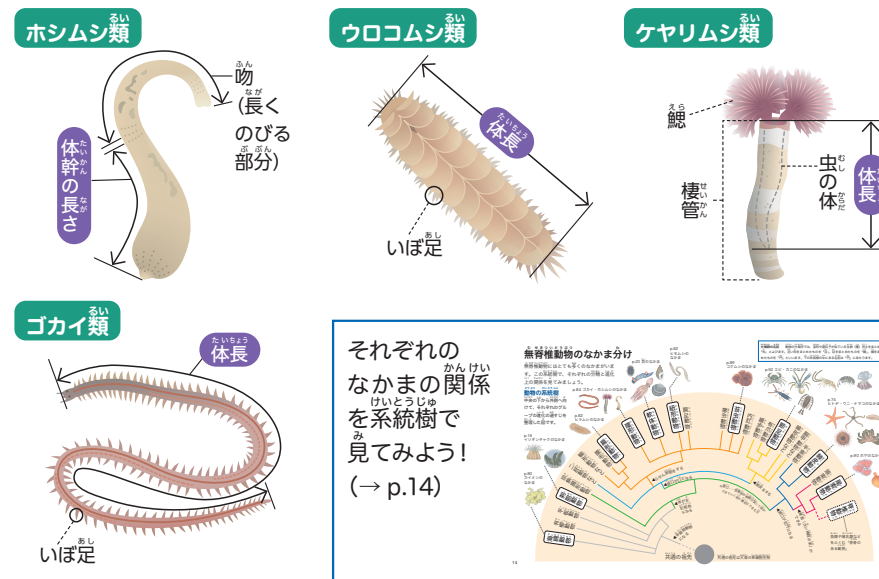


(以下のなかまは、この図鑑では「その他のなかま」のページにのっています)

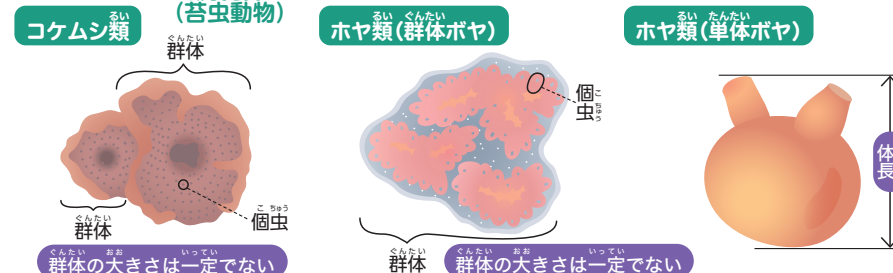
カイメンのなかま ヒラムシのなかま ヒモムシのなかま (かいめんだうぶつ) (へんけいどうぶつ) (ひもがたうぶつ) (海綿動物) (扁形動物) (紐形動物)



ゴカイ・ホシムシのなかま (かんけいどうぶつ) (環形動物)



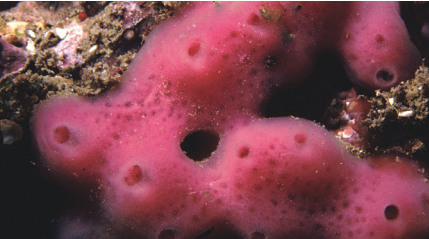
コケムシのなかま ホヤのなかま (びさくどうぶつ) (苔虫動物) (尾索動物)



カイメンのなかま

かいめんどうぶつ
海綿動物

からだ すいじゅう こま えいようぶん と
スポンジのようなやわらかい体で、水中の細かい栄養分をこし取っています。
シート状に広がるばかりでなく、
りったいてき かたち
立体的な形になることもあります。



ムラサキカイメン
〈カワナシカイメン科〉

おお 大きさ ふてい 不定 かんきょう 環境 東・南／⑤⑥⑦⑧／岩の上
☆☆
ちさき 小さい
紫色の、でこぼことしたかたまり状です。ぽつぽつと開いた穴は出水孔です。



ナミイソカイメン
〈イソカイメン科〉

おお 大きさ ふてい 不定 かんきょう 環境 西・東・南／①②③④／岩の上
☆☆☆
きいろ 黄色 かいろくしやく 灰緑色
黄色や灰緑色ですが、緑の色は共生する藻類によるものと考えられています。



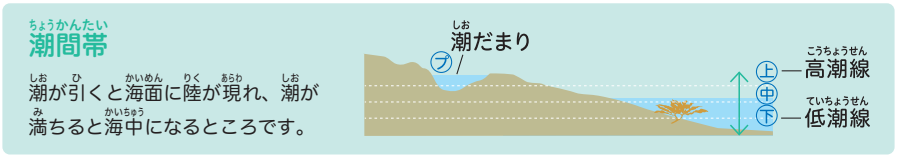
クロイソカイメン
〈イソカイメン科〉

おお 大きさ ふてい 不定 かんきょう 環境 西・東・南／④⑤⑥⑦／岩の上
☆☆☆
うしろ 裏
表面は濃い灰色、内部は黄褐色の、でこぼことしたかたまり状です。出水孔があります。



キイロイソカイメン
〈イソカイメン科〉

おお 大きさ ふてい 不定 かんきょう 環境 南／⑤／岩の上 ☆
きいろ 黄色 ひ てきたい 平坦
黄色で、比かくの平らかなかたまり状です。出水孔は目立ちません。



ダイダイイソカイメン
〈イソカイメン科〉

おお 大きさ ふてい 不定 かんきょう 環境 西・東・南／④⑤⑥⑦／岩の上
☆☆☆
いろ 色
オレンジ色で、でこぼことしたかたまり状です。盛り上がった頂点に出水孔があります。

ずかん 図鑑が活やく

かいがんせいぶつさ 海岸生物調査のようすです。じっくりさが探して、図鑑でどんな生き物なのかをしら調べます。

えいご 英語ではスポンジ

かいめん カイメンは英語で「スポンジ」といいます。あらもの 洗い物のスポンジとして、乾燥したカイメン (写真中央) が時折売られています。えしま 江の島のカイメンには細かいガラス質のこっぺん 骨片がふくまれているため、ざらざらとしています。

しゃしんみぎ 写真右：三浦に打ち上がっていた乾燥カイメン／写真中央：洗い物用の養殖カイメン

ヒラムシ・ヒモムシのなかま

ヒラムシは、薄く平たい動物です。ヒモムシはとても細長い動物で、ムチのような長い舌を出して獲物をとらえます。

へんけいどうぶつ
扁形動物
ひもがたどうぶつ
紐形動物



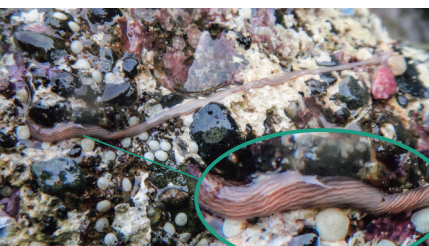
イイジマヒラムシ
(スチロヒラムシ科)

大きさ 体長 5cm 環境 東/⑦/石の下 ☆
体色は黄色～褐色で、黒っぽい斑点が全身にあります。外見での判別が難しい種です。



ウスヒラムシ
(ヤワヒラムシ科)

大きさ 体長 3cm 環境 南/⑦⑦/石の下 ☆
体色は褐色、黄色、灰色などさまざまです。体は薄く、内臓が透けて見えます。



タテジマヒモムシ
(ヴァレンシニア科)

大きさ 体長 20cm 環境 東・南/⑦/石の下 ☆
薄い赤色の体に、濃い赤色のたてじまが多数あります。石の下で暮らしています。



ミサキヒモムシ
(リネウス科)

大きさ 体長 50cm 環境 東/⑦/石の下 ★
褐色の細長い体に、リング状に白色の細い線が一定の間かくて見られます。

Column 江の島は日本の海洋生物学発祥の地

崎山 直夫 (新江ノ島水族館)

エドワード・モース

エドワード・モースをご存じでしょうか。明治の初めにアメリカからやってきた、いわゆる「おやとい外国人」です。モースは大森貝塚を発見して日本に考古学をもたらしたことが有名ですが、実は、ここ江の島にもたいへんゆかりのある人物です。

大森貝塚の発見と同じ 1877 年の夏、モースは江の島にやってきました。そして、日本で初めてとなる「臨海実験所」を設置。自身の研究と、できたばかりの東京大学で使用するために海洋生物の採集を行いました。そのため、江の島は「日本の海洋生物学発祥の地」、あるいは「近代動物学発祥の地」とわれています。江の島から始まった臨海実験所は、その後、東京大学三崎臨海実験所の開設につながりました。江の島の入口にある公園にはその功績をたたえた記念碑が建てられ、かつては海岸線だった臨海実験所跡地とされる場所には、それを示すパネルが置かれています。彼の著書『JAPAN DAY BY DAY (日本その日の白)』には、現在では見られないシャミセンガイのなかまが江の島でたくさん採集されたことなど、当時の日本のこと

が詳細に記録されています。その学問への意志は新江ノ島水族館などに受けつがれています。

海洋生物研究の歴史

実はモース以外にも、同じおやとい外国人であるヒルゲンドルフやデーデルラインなど多くの研究者が相模湾の海洋生物を手に入れて母国に持ち帰り、研究してきました。江の島から三崎にかけての相模湾は、日本の海洋生物研究の歴史を語る上で外すことができない黄金ルートといっても過言ではありません。相模湾の研究の歴史はおおよそ 150 年にもなり、当時採集された標本が海外の博物館に今も残っています。



写真左：モース臨海実験所跡推定地のパネル／写真右：北緑地広場のモース記念碑

ゴカイ・ホシムシのなかま① かんけいどうぶつ 環形動物

ほそなが からだ おな かたち おお ふし たいせつ つら
細長い体は、ほぼ同じ形をした多くの節（体節）が連なってできています。
ゴカイ類では、各節から、かたい毛のあるいば足が出ています。



サメハダホシムシ
〈サメハダホシムシ科〉
おお たいかん なが かんきょう ひがし ならみ
大きさ 体幹の長さ 1cm 環境 東・南／ $\oplus\oplus\oplus$ ／
岩のすき間や石の下 ☆☆☆
うす かっしよく なが こう ひ ふん のうかっしよく
薄い褐色で、長くのびる口部（吻）に濃褐色
のかき状の突起があります。



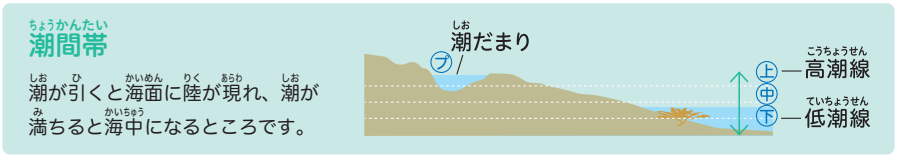
サミドリサシバ
〈サシバゴカイ科〉
おお たいちよう かんきょう ひがし いし
大きさ 体長 5～20cm 環境 東／ $\oplus\oplus\oplus$ ／石の
した がら ま
下やカキ殻のすき間 ☆
からだ みどりいろ ほそなが はいめん さんかくけい とつ き
体は緑色で細長く、背面に三角形の突起があ
ります。



アケノサシバ
〈サシバゴカイ科〉
おお たいちよう かんきょう ひがし いし うら
大きさ 体長 2～5cm 環境 東／ $\oplus\oplus$ ／石の裏
☆
からだ ほそなが はいめん あかいり き いろ ようじょうとつ き
体は細長く、背面は赤色や黄色の葉状突起で
おおわれます。



マダラウロコムシ
〈ウロコムシ科〉
おお たいちよう かんきょう ひがし いし うら
大きさ 体長 1.5～4cm 環境 南／ $\oplus$ ／石の裏
☆
ついで
15対のうろこをもちます。うろこには褐色の
もようがあり、とてもはがれやすいです。



ヤチウロコムシ
〈ウロコムシ科〉
おお たいちよう かんきょう にし ひがし ならみ いし
大きさ 体長 2cm 環境 西・東・南／ $\oplus\oplus$ ／石の
うら ☆
うろこは 12 対です。うろこには灰色のもよ
うと、表面にととても小さな突起があります。



ナガフサツキウロコムシ
〈ウロコムシ科〉
おお たいちよう かんきょう ひがし いし うら
大きさ 体長 1～4cm 環境 東／ $\oplus$ ／石の裏 ☆
はいめん 15 対のうろこをもち、うろこの表面
には大小さまざまな突起があります。



オトヒメゴカイ
〈オトヒメゴカイ科〉
おお たいちよう かんきょう ひがし いし うら
大きさ 体長 8cm 環境 南／ $\oplus$ ／石の下や岩のす
き間、砂底 ☆
はいめん せきかっしよく あんかっしよく まだら
背面には赤褐色から暗褐色の斑があります。
いかわ ま すなそこ せいそく
岩のすき間や砂底に生息します。



オイワケゴカイ
〈ゴカイ科〉
おお たいちよう かんきょう にし ひがし いし うら
大きさ 体長 2cm 環境 西・南／ $\oplus$ ／石の裏 ☆
からだ うす かっしよく ももいろ たいちよう あつ
体は薄い褐色～桃色です。体表は厚いクチュ
ラでおおわれ、比かくの乾燥に強い種類です。

ゴカイ・ホシムシのなかま②

かんけいどうぶつ
環形動物



クマドリゴカイ

〈ゴカイ科〉

おお たいちよう かんきよう にし ひがし かいそう した
大きさ 体長 2cm 環境 西・東/㊦㊧/海藻の下
いし した ☆
や石の下 ☆
たいしよく くら どう ぶ ばいめん
体色は黒っぽく、頭部の背面にくまどりのよ
うな模様があります。



ヒトツブゴカイ

〈ゴカイ科〉

おお たいちよう かんきよう にし ひがし かいそう した
大きさ 体長 9cm 環境 西・東/㊦㊧㊨/砂れき
☆
くまどりに 似ていますが、くち から 出る
クマドリゴカイに似ていますが、口から出る
物の表面にある小さな突起の数異なります。



ヒゲブトゴカイ

〈ゴカイ科〉

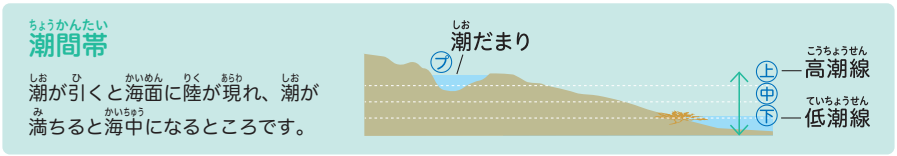
おお たいちよう かんきよう ひがし かいそう なか
大きさ 体長 4cm 環境 東/㊦/海藻の中 ☆
とう ぶ しょうしゆ ばらがわ つい ふと あじか
頭部にある触手のうち、腹側の1対が太く短
いことが、名前の由来です。



イシイソゴカイ

〈ゴカイ科〉

おお たいちよう かんきよう ひがし かいそう なか
大きさ 体長 5cm 環境 南/㊦/砂れき ☆
からだ がっしよく つ え り
体は褐色で、釣り餌の「じゃりめ」として利
用されます。



ミズヒキゴカイ類

〈ミズヒキゴカイ科〉

おお たいちよう かんきよう にし ひがし かいそう した
大きさ 体長 4cm 環境 西・東・南/㊦㊧㊨/砂泥 ☆☆☆
さ でいちゆう
砂泥中にもぐり、たくさんの赤や白、ピンク
色の糸のようなものを出しています。



クマノアシツキ

〈クマノアシツキ科〉

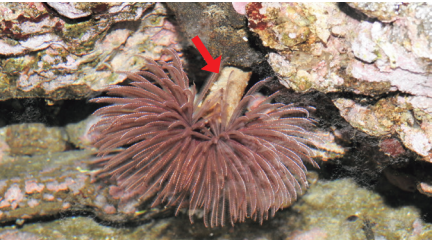
おお たいちよう かんきよう ひがし かいそう した
大きさ 体長 6cm 環境 南/㊦/石の下 ☆
ついでいし
4対の触手のような器官をよく動かします。



スゴカイイソメ

〈ナナテイスメ科〉

おお たいちよう かんきよう ひがし かいそう なか
大きさ 体長 4cm 環境 東・南/㊦㊧/砂れき ☆
すな かいがら かいそう ねんえき かた くだ せいかん
砂つぶや貝殻、海藻を粘液で固めて管 (棲管)
を作り、その中で暮らします。



ケヤリムシ

〈ケヤリムシ科〉

おお たいちよう かんきよう ひがし かいそう なか
大きさ 体長 8cm 環境 東・南/㊦㊧㊨/岩のす
き間 ☆☆☆
すな ねんえき つく しょう せいかん や じりし
砂と粘液で作ったストロー状の棲管 (矢印)
を岩に附着させ、そこから鰓を広げます。



ゴカイ・ホシムシのなかま③ かんけいどうぶつ 環形動物



ヤッコカンザシゴカイ
〈カンザシゴカイ科〉
おお たいよう かんきょう にし ひがし みなみ
大きさ 体長 1cm **環境** 西・東・南／**⑤⑥⑦⑧**／
いわ コンクリートの上 ☆☆☆
せいかん みずいろ いわはだ ぐんせい へいきんかいめん
棲管は水色で、岩肌に群生します。平均海面
付近にまとまって岩に付着します。



カニヤドリカンザシゴカイ
〈カンザシゴカイ科〉
おお たいよう かんきょう にし ひがし みなみ
大きさ 体長 2.5cm **環境** 西・東・南／**⑤⑥⑦⑧**／
いわ コンクリートの上 ☆☆☆ **外来種**
はくしよく かつしよく せつかいしつ せいかん かい じんこうぶつ
白色や褐色の石灰質の棲管で、貝や人工物の
上に群生します。汽水域によく見られます。



エゾカサネカンザシゴカイ
〈カンザシゴカイ科〉
おお たいよう かんきょう にし ひがし いわ
大きさ 体長 2.5cm **環境** 西・東／**⑥⑦⑧**／**いわ** 岩や
コンクリートの上 ☆
せつかいしつ しろ せいかん いわ いし みちやく に
石灰質の白い棲管で岩や石に付着します。二
重の殻蓋をもちます。



ウズマキゴカイ類
〈カンザシゴカイ科〉
おお たいよう かんきょう にし ひがし みなみ
大きさ 体長 0.5cm **環境** 西・東・南／**⑤⑥⑦⑧**／
いわ コンクリートの上 ☆☆☆
しろ せつかいしつ せいかん ちい まきじょう
白い石灰質の棲管は小さく、うず巻状です。
棲管の巻き方には右巻きと左巻きがあります。

コケムシのなかま こけむしどうぶつ 苔虫動物

せつかいしつ へ や ちゅうしつ びき からだ はい じょうたい こ ちゅう
石灰質などでできた部屋（虫室）に1匹の体が入った状態を「個虫」とい
います。多くの個虫がつながり、全体でひとつの生物となります（群体）。



ホンダワラコケムシ
〈フクロコケムシ科〉
おお こ ちゅう かんきょう ひがし いわ した ふな
大きさ 個虫 < 0.1cm **環境** 東／**⑥⑦⑧**／**いわ** 岩の下や船
底、いかだ、うきなどの人工物上 ★
こ ちゅう おうかつよく ほんとうめい いわ みちやく
個虫は黄褐色か半透明です。岩に付着してた
れ下がるようすは、まるで海藻です。



チゴケムシ
〈チゴケムシ科〉
おお こ ちゅう かんきょう ひがし みなみ
大きさ 個虫 < 0.1cm **環境** 東・南／**⑤⑥⑦⑧**／
いわ いし した
岩や石の下 ☆☆☆
こ ちゅう せきかつしよく ぐん ぐんたい
個虫は赤褐色ですが、ひだのようになった群
体の内側に黒っぽくなる部分があります。

ウズマキゴカイの近くにいる

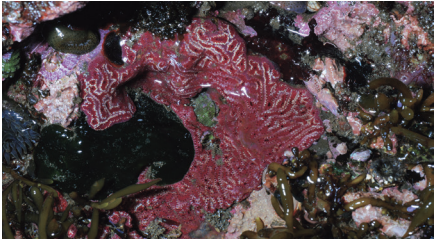
とても小さなオレンジ色のオカダウミウシは、ウズマキゴカイを食べます。よく観察してみると、ウズマキゴカイの近くで見つけることができます。



ホヤのなかま

びさくどうぶつ
尾索動物

食材として知られるマボヤと同じなかまです。1匹で暮らす種類と群体をつくる種類がいて、どちらも体は皮でおおわれます。幼生は水中を泳ぎます。



イタバヤ

〈イタバヤ科〉

大きさ 個虫<0.4cm 環境 南/Ⓣ/岩や石の下

☆
赤紫色の群体で、1匹ずつがたがいに接してはしご状に列を作って並びます。



シロバヤ

〈シロバヤ科〉

大きさ 体長5cm 環境 東/Ⓣ/岩や石の下、

ロープなど人工物上 ☆
体をおおう皮は白く、厚くでこぼことしています。石の下や人工物に付着します。



ベニバヤ

〈マボヤ科〉

大きさ 体長5cm 環境 東・南/Ⓣ/岩や石の下

☆
ほぼ球形で、皮の下の赤い筋膜が透けて見えます。中央にもっと赤く見えるのは卵巣です。



黒い化石

南の岩場をよく見ると、黒い部分があるところにあります。およそ1200万年前の、炭化した木の化石です。

Column

海岸動物調査を始めたころの江の島

うえだ いくお ぬまがわい けんく
植田 育男 (神奈川大学)

1987年の江の島

潮間帯動物相の調査を始めたのは1987年5月でした。そのころの江の島の海岸はどのような状況だったのでしょうか？
私たちが野外で調査を行う際には、現地で測定できる気象情報や水質を記録します。ただ、この時は自前の測定機器としては温度計しか持ち合わせず、第1回目調査の報告書には各調査地点の天候と気温と水温の記録が書かれているだけです。あとは調査時の現場の状況を報告する文章から、当時のようすを思い出すしかありません。

調査報告の中から当時のようすがわかる文をいくつかぬき出すと、「St.1 (調査地点の番号) 江の島南西岸では、一般的に外海に面した岩礁によく見られるとされるケガキ、カメノテ、オオアカフジツボ、クロフジツボなどが多く見られた」と書かれており、外海環境であったことがよくわかります。一方で、「St.2 江の島北西岸では、ホトギスガイやムラサキガイがどの潮位高でも優占しており、St.1 に比べて内海性 (内

海環境) の性格を示していた」と書かれており、江の島の南の磯と北西の磯では環境のちがいが大きかったようです。さらにもう1点気にとめておきたいことは、「St.3 江の島北部・西浜では、境川からの河川水流入の影響を直接受けており、周囲一帯は硫化物の臭い、いわゆるドブくささが漂っていた。(中略) 動物相は極めて貧弱で、確認されたものは4種類 (ほかの調査地点4か所では1か所あたり15種〜51種の動物が見つかった) であった。」と書かれており、境川の水の影響が強くおよぶ環境では河川水による汚染が大きく、生き物たちの「生きづらさ」にもつながって



1987年の調査地点のようす

参考文献

書籍

『新 写真でわかる磯の生き物図鑑』 今原幸光（編著） 2023 海文堂出版株式会社
『小学館の図鑑 NEO POKET 海辺の生物』 白山義久ほか 2011 株式会社小学館
『日本近海産貝類図鑑』【第二版】 奥谷喬司（編著） 2017 東海大学出版部
『写真でわかる磯の生き物図鑑』 今原幸光（編著） 2013 トンボ出版
『海洋生物ガイドブック』 益田一 1999 東海大学出版
『小学館の図鑑 NEO 新版 水の生物』 白山義久ほか 2019 株式会社小学館
『ナマコガイドブック』 本川 達雄、今岡 亨、楚山いさむ 2003 株式会社阪急コミュニケーションズ
『ヨコエビガイドブック』2 版 有山啓之 2023 海文堂出版株式会社
『環形動物多毛類』 第 2 版 今島実 2004 株式会社生物研究社
『干潟ベントスフィールド図鑑』 鈴木孝男、木村昭一、木村妙子、森敬介、多留聖典 2013 特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合

論文

江の島の潮間帯動物相 植田育男・萩原清司 1988 神奈川自然誌資料, (9) : 23-29
江の島の潮間帯動物相 II 萩原清司・植田育男 1993 神奈川自然誌資料, (14) : 53-58
江の島の潮間帯動物相 III 植田育男・萩原清司・崎山直夫 1998 神奈川自然誌資料, (19) : 31-38.
江の島の潮間帯動物相 IV 植田育男・萩原清司・崎山直夫・足立 文 2003 神奈川自然誌資料, (24) : 25-32
江の島の潮間帯動物相 V 植田育男・萩原清司・櫻井 徹 2008 神奈川自然誌資料, (29) : 163-169.
江の島の潮間帯動物相 VI 植田育男・萩原清司・伊藤寿茂・北嶋 円・村石健一 2013 神奈川自然誌資料, (34) : 25-32
江の島の潮間帯動物相VII 伊藤寿茂・植田育男・萩原清司・北嶋 円・岩崎猛朗・村石健一・崎山直夫 2018 神奈川自然誌資料, (39) : 13-21
江の島の潮間帯動物相 VIII 西川湧馬・植田育男・萩原清司・崎山直夫・伊藤寿茂・北嶋 円・加登岡大希・藤田温真 2023 神奈川自然誌資料, (44) : 89-100.
江の島潮間帯のフジツボ相 植田育男・萩原清司 1990 神奈川自然誌資料, (11) : 125-129.

ウェブサイト

BISMaL- ビスマル - 国立研究開発法人海洋研究開発機構
<https://www.godac.jamstec.go.jp/bismal/j/>

謝辞

本書のきっかけである「江の島の潮間帯動物相調査」は 1987 年、当時江の島水族館に勤務していた植田育男氏と萩原清司氏が始めたもので、当館が江の島を継続調査する礎となっております。調査にあたり、江の島片瀬漁業協同組合や湘南海上保安署、江の島ヨットハーバー、島民のみなさまにご協力をいただきました。池田等先生、大谷道夫先生、西栄二郎先生には専門的な目線よりご校閲をいただきました。地形の変化については平塚市博物館の野崎篤氏に助言をいただきました。また、河津結実氏、宮村美帆氏、尾和みゆき氏のお陰で本の形になったと言っても過言ではありません。本書は海の学びミュージアムサポートの助成金を活用し制作いたしました。関わってくださった多くの方々に深く御礼申し上げます。

北嶋 円

執筆協力・制作

校閲

池田 等（相模湾海洋生物研究会）
大谷道夫（大阪市立自然史博物館）
西 栄二郎（横浜国立大学）
なぎさの体験学習館
小学館クリエイティブ

画像協力

池田 等（相模湾海洋生物研究会）
なぎさの体験学習館
藤沢市藤澤浮世絵館

イラスト

倉本ヒデキ（p.10-15、p.112-114、p.117）
新江ノ島水族館 デザインチーム

デザイン

櫻元久幸（新江ノ島水族館）
ニシエ芸株式会社

編集

新江ノ島水族館
尾和みゆき・河津結実（小学館クリエイティブ）
宮村美帆

DTP

ニシエ芸株式会社

印刷

柴坂徹也（TOPPAN クロレ株式会社）

特別協力

船の科学館「海の学び ミュージアムサポート」



執筆・撮影 (五十音順)

足立 文 (新江ノ島水族館)

伊藤寿茂 (相模川ふれあい科学館・アクアリウムさがみはら)

植田育男 (神奈川大学)

北嶋 円 (新江ノ島水族館)

崎山直夫 (新江ノ島水族館)

鈴木良博 (新江ノ島水族館)

萩原清司 (横須賀市自然・人文博物館)

西川湧馬 (新江ノ島水族館)

えのすい^{うみ}海のすかん

え^{しま}江の島むせき^{かいがん}ついで^{ずかん}海岸どうぶつ図鑑

2025 年 2 月 10 日 初版第 1 刷発行

編著・発行 株式会社新江ノ島水族館
〒251-0035
神奈川県藤沢市片瀬海岸 2-19-1
電話 0466-29-9960
URL <https://www.enosui.com/>

印刷・製本 TOPPANクロレ株式会社

©2025 Enoshima Aquarium
ISBN 978-4-9907871-1-0

Printed in Japan

本書の一部または全部を無断で複製、転載、複写（コピー）、スキャン、デジタル化、放送等の二次使用をすることは、著作権法上での例外を除き禁じられています。代行業者等の第三者による本書の電子的複製も認められておりません。

第一種動物取扱業に関する表示 事業所の名称：新江ノ島水族館 事業所の所在地：神奈川県藤沢市片瀬海岸 2-19-1 登録に係る第一種動物取扱業の種別：展示 動愛第 210512 号 登録年月日：2007 年 5 月 10 日 登録の有効期間の末日：2027 年 5 月 9 日 販売 動愛第 210513 号 保管 動愛第 210514 号 貸出し 動愛第 210515 号 登録年月日：2017 年 4 月 14 日 登録の有効期間の末日：2027 年 4 月 13 日 動物取扱責任者：白形知佳・崎山直夫